

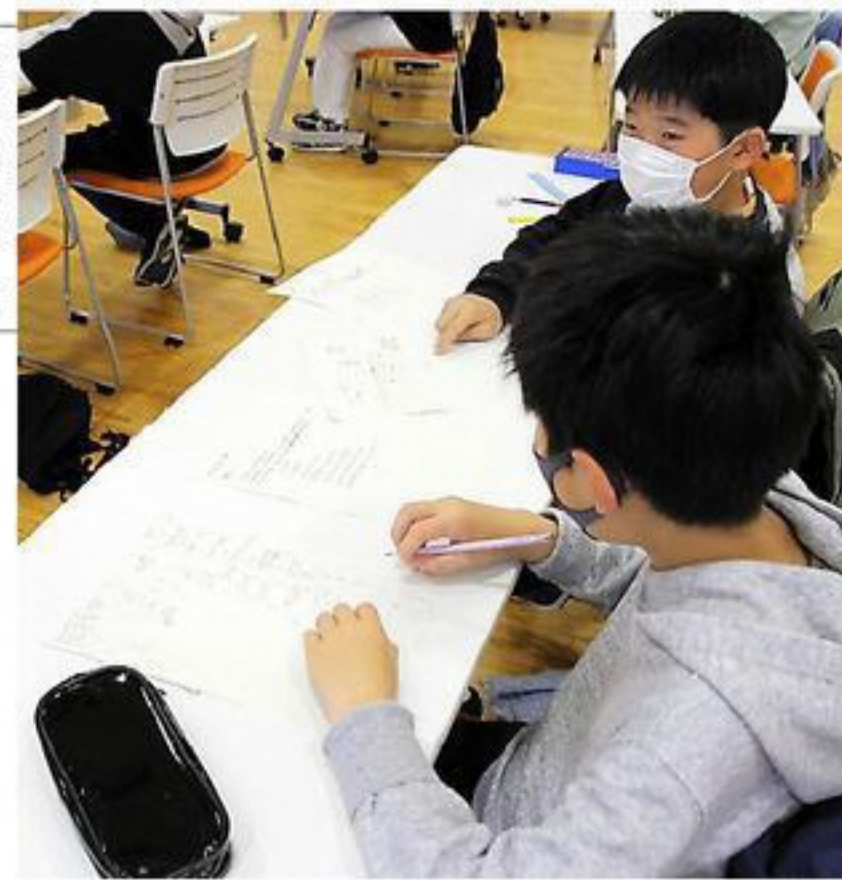
田村市教委主催チャレンジ塾

小学5、6年生を対象に田村市教育委員会が設けた「たむらチャレンジ塾」の3年目の授業が10日始まった。全国の難関大学に毎年10人合格させる「東大10人構想」の一環だ。（森北喜久馬）

教室は市役所の多目的言われた」という子が2ホール。開始前には軽快人いたが、ほかは「好きな音楽が流れ、休憩時間な算数の力をもっと伸ばに食べられるようスナックしたい」「苦手なので克服したい」と自ら参加を。市教委主催とは思えない自由な雰囲気だ。

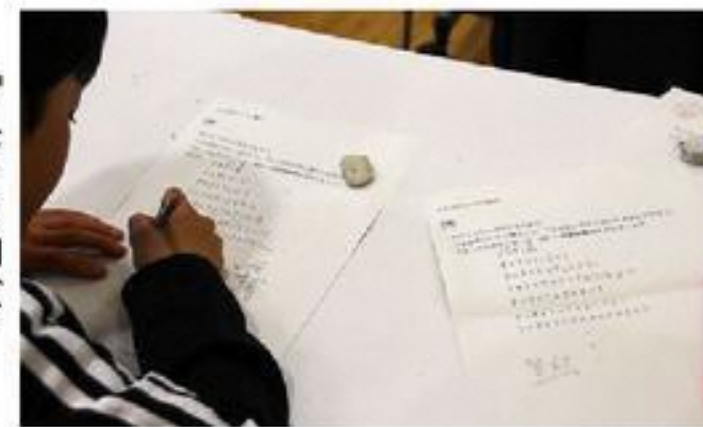
この日は19人が集まった。問題は「『日』に棒を1本加えて、別の漢字をた

小学生白熱「めざすぞ難関大」



解き方を隣の子と話し合うこともOKだし、いずれも10日、田村市役所

「算数得意にしたい」「苦手克服したい」



「7を100回掛けたら一の位の数字は」を解く小学生

くさん書きなさい」だった。制限時間は1分だ。

記者も一緒にやってみた。田・白・甲・由・旧の五つを思い出し、「これで勝ったな」。甘かった。子どもたちはさらに申・目・旦を加えた八つを書き出していた。

最初の授業は算数。その1問目は「7を100回掛けたら一の位の数字は何か」という問題だった。

7×7=49、7×7×7=343……と繰り返すうちに、7を100回掛けると、この繰り返しが25巡目に入ると、ちょうど終わるので「1」が答えになる。

休憩を挟んで、2時間目は国語で私立中の入試問題、3時間目の英語では中1レベルのリスニングに挑戦した。

年内はあと4回予定されている。参加は1回ずつの申込制だ。船引小5年の佐藤礼奈さんは「問題は難しかったけれど、算数を得意になりたいから絶対に次も来る」と話していた。

どんな進学校にも合格できる環境を

たむらチャレンジ塾は田村市教委が進める「東大10人構想」の具体策の一つだ。飯村新市・教育長に狙いを聞いた。

毎回参加した子は12月、東京大学に連れて行く。

といっても、東大というのは分かりやすい例え。京都大、一橋大、東京科学大といった難関校に加え、全国どこも狭き門の国立大の医学部もあわせて年間10人を田村市から入学させるのが目標だ。

白石高司市長が4年前に初当選した際、選挙戦で「東大へ10人入れる」ことを掲げた。当時、私を含め誰もが無理だと思った。東大合格者が多い県立安積高校でも毎年5人程度なんだから。

だが待てよ。公立の小中学校では、長年、弱点克服型の授業をやってきた。

「東大10人構想」の狙い 飯村教育長に聞く

た。それはもちろん大事だが、理解が早い子をさらに伸ばすことはどうだったか。あまり重要視してこなかったことに改めて気づかされた。

私は主に郡山で教員生活を送り、県教委で働いたこともある。せっかく県立医科大があるのに、県内出身の学生は少数派。「福島県には良い学校がないから」と、子どもを首都圏に置いて単身赴任する親を何人も見てきた。

田村に住めば、どんな進学校にも合格できる。そんな環境を整えないと、近い将来、田村に戻って働いてくれる医者さえいなくなるという危機感がある。

チャレンジ塾以外では、昨年11月、英検3級以上の中学生10人をフィリピンのセブ島に連れて行き5日間英語漬けの研

していけばできるが、時間がかって仕方がない。数分すると何人かが「分かった」と手を挙げ始めた。

中学校で数学を教えたいた深谷昌之指導主事が「誰かヒントを」と言うのと、「なんか決まりがある」という声が上がった。

実は一の位だけに着目すると、「7÷9→3→1」と四つの数字が繰り返されていくのだ。7を100回掛けると、この繰り返しが25巡目に入ると、ちょうど終わるので「1」が答えになる。

休憩を挟んで、2時間目は国語で私立中の入試問題、3時間目の英語では中1レベルのリスニングに挑戦した。

年内はあと4回予定されている。参加は1回ずつの申込制だ。船引小5年の佐藤礼奈さんは「問題は難しかったけれど、算数を得意になりたいから絶対に次も来る」と話していた。

教員のレベルアップも重要だ。小中一貫教育で知られる京都市立御所南小学校や、全国学力テストで常に上位を占める福井や富山など全国各地の「先進校」として知られる小中学校に派遣している。1日ではなく1週間なのがミソ。それだけいると、子どもが本心に納得して授業を受けているのかが見えてくる。

当面の目標は、今春開校した県立安積中学校に10人、安積高校には20人を毎年合格させることだ。2040年には、幼小中高の一貫教育ができる学校を開校させる構想を描いている。

とにかく、小中学校の教育を外から選んでもらえる水準に高めなければ、それができなければ、田村の教育に明日はない。

授業が終わった後、参加者が集まって記念撮影をした

